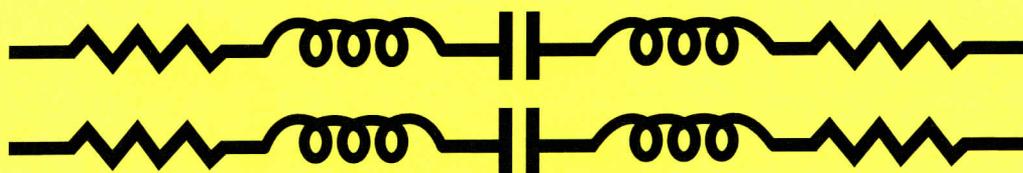


岩手大学電気電子情報科会誌

きたかみ

第 54 号

2008 年 3 月 発行

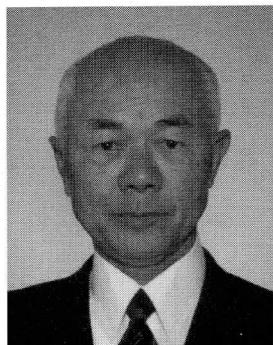


目 次

会長挨拶	会長 佐々木 喜八郎	1
在職 41 年の思い出	相 馬 孝 志	2
草刈賞		5
「草刈賞」選考要項		5
第 4 回草刈賞受賞者の紹介		6
草刈賞を受賞して		7
電気電子工学科の近況	学科長・専攻長 田山典男	9
情報システム工学科の近況	学科長・専攻長 渡邊孝志	10
電気系学科の構成員名簿		12
《支部だより》 平成 19 年度東京支部大会		13
平成 19 年度仙台支部総会		14
平成 19 年度盛岡支部総会		15
平成 19 年度電気電子情報科会総会		16
平成 19 年度電気電子情報科会総会議事録		17
平成 18 年度決算書		18
平成 19 年度予算書		19
平成 19 年度電気電子情報科会役員名簿		20
平成 18 年度役員会経過報告		22
年会費納入表		24
年表		25
編集後記		30
平成 20 年度総会並びに懇親会開催の御案内		裏紙

ご 挨拶

岩手大学電気電子情報科会 会長 佐々木喜八郎



科会が発足して今年で67年目になりますが、卒業生延べ5,700名、会誌「きたかみ」の送付会員が約4,200名にもなりました。仙台支部では今年の正月に先輩諸氏の長寿を祝う会が催されましたが、科会の進展とともに真に慶賀にたえません。

わが岩手大学も官から民へ変わり、着々と新しい体制へと移行しておりますが、科会の母体となる電気、電子、情報各学科の今年の卒業生の就職率は約100%、その就職先も卒業生の希望が適う好ましい状況と仄聞しております。最近の求人情勢の好転もありましょうが、産業界におけるこれまでの先輩諸氏の活躍の評価が、岩手大学電気系学科の卒業生に対する大きな期待として、現れて来たのではないのでしょうか。

私は、戦後の地方総合開発計画の一環として発足した、岩手県営水力発電所の企画、建設、管理運営に携わってきましたが、発電機器メーカーや電力会社等、電力供給に関連した分野で活躍されている多くの先輩諸氏の力添えを戴きながら、岩手県営発電の初期の目的を達成できたものと感謝いたしております。

四国4県の広大な面積をもつ岩手県ですが、海岸線は国立自然公園の制約等から大規模電源立地は構想に留まりましたが、将来の電力エネルギーの供給を考えると、石油資源等に依存しない電源確保政策が必要であります。大学の電気系学科としても、経済の基盤を支える電力エネルギーの開発分野にもっと目を向けていきたいと思えます。最近の石油高騰を、一時的なマネー投資の結果とする経済学者が多いようですが、石油資源は近い将来確実に枯渇する資源であり、少資源国の日本は核エネルギーの有効利用を進める必要があります。安全対策は当然であります。大学が率先して原子力エネルギー利用に正しい認識を持つよう、市民をリードして戴きたいと思っています。

私は在職中、母校工学部の公開講座で、佐藤淳先生から原子力発電の基本的事項を学び、原子力発電や廃棄物処理の現地にも足を運びました。県の企画調整部に在籍中は、原子力反対派の人達や、理解ある人達とエネルギー問題について真剣に話し合ったことが、昨日のように思い出されます。

終わりに会費納入についてのお願いです。科会の会員は、東京地区60%、仙台地区30%、盛岡地区10%にほぼ分散されておりますので、会費の納入は東京、仙台の両支部活動に大きく期待している次第です。先輩の方々ほど納入率が高く、後年の方々ほど低くなっています。現在総計で納入率31%止まりですので、科会の健全運営と今後の発展のため、特に若い方々の会費納入を期待して、ご挨拶といたします。

在職 41 年の思い出

元工学系技術室・技術専門員 相馬孝志



会員の皆様におかれましては、日々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

私は、平成 19 年 3 月 31 日をもって岩手大学を定年退職いたしました。

思い出せば、昭和 40 年の 5 月に新設間もない電子工学科に技術補佐員として採用されて以来、41 年もの長期間在職いたしましたこととなります。以下、在職中に印象に残ったことを記しますが、古いことに関する思い違いなどはご容赦をお願いいたします。

昭和 40 年頃の工学部の建物はほとんどが木造でした。私達電気系新規採用者の居室は「佐川幼稚園」と呼ばれていて、工学部の北の木造の講堂を新設の電子工学科のためにベニヤ板で間仕切りして急造したものでした。そして、ここでトランジスタなどの学生実験が始まりましたが、実験結果は理屈とは異なるものでした。程なくその原因が工学部の裏に立っていた NHK の中波放送のアンテナからの電波であることが判りました。私は、アマチュア無線の経験から、高周波のバイパスコンデンサーを入れれば影響を軽減できると進言して手当した結果、良好な結果が得られるようになったと言う思い出が残っております。

このアンテナの出力は、窓に取り付けた金網とアースとの間で豆電球が点灯するほどのもので、北分室の諸兄は電波停止後でないと言

実験ができないなど、いろいろ悩まされていたようです。

私の所属研究室は、電子計算機を用いて微分方程式を解くプログラムの開発や計算機の記憶装置などのハードウェアとシステムプログラムの研究などを行っていました。このため、本学に初めて導入された電子計算機システム（富士通 FACOM 231）の導入にも関わっていて、導入当初から学生さんと一緒に優先的にシステムを使用することが出来ました。

またこの頃、旧帝大には全国共同利用の大型電子計算機システムが設置され、本学にも共同利用のための窓口やプログラム指導員組織が発足しました。私も先に定年退職された吉田功さんと一緒に東北大学大型計算機センターのプログラム指導員として本学でのプログラム指導に当たりました。

当時の東北大学大型計算機センターは、タイムシェアリングシステム（TSS）によるオンライン共同利用を目玉としていたことから、共同利用支援が活発であった岩手大学は他に先駆けて遠隔地端末の利用拠点として選ばれ、研究室に 50 ボーの電電公社（当時）の回線とテレタイプを設置した端末室が作られました。この部屋でテレタイプのキーをたたいた学生さんは研究室以外にも多数おられたと思います。

1970 年代は、研究環境が汎用コンピュータからミニコンピュータに移り、研究室が独自でソフトウェアを作成し、周辺装置などをコンピュータに接続するようになりました。このた

め、私も学生さんと一緒に機械語や機器接続インタフェース、集積回路などの多くのことを学び、当時、体育館を会場にして開催していた「電気展」にその成果を出展したことは忘れられない出来事です。

この後、ミニコンピュータはマイクロコンピュータにその座を明け渡すのですが、私たちの研究室では他に先駆けてインテルの i-8008 マイクロコンピュータを使用したシステム開発に取り組みました。この開発を通して私たちは、新しい知識と電子技術総合研究所などの学外の技術者との交流をもつことが出来ました。

1970年代の終わりには田山先生の下で、当時としては斬新な並列計算機システム (PIPE) の実現に取り組み、「家内制コンピュータ工場」を展開し、学生さん共々ノルマ達成のための残業にいそしみながら多くの知見を得ることが出来ました。

1980年代には、先に定年退職された横山先生の研究室に移り、リモートセンシングデータ解析室開設 (1985年) のためのシステム設計や導入を手伝い、以来 20年 の間システムの運用管理を行いました。

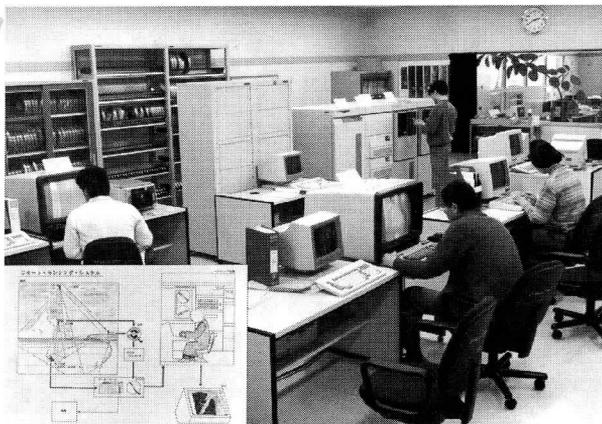


写真1 リモートセンシングデータ解析室

また、この頃に画像処理システム MIPS/I を渡邊先生の指揮の下に企業人と学生さんとでチームを組みソフトウェア工場スタイルで開発したことが印象に残っております。

リモートセンシング関連では、衛星データを地上で検証する実験プロジェクトのための計測システムの設計と製作を手がけ、1992年の国際宇宙年 (ISY) や 1995年から 1997年に実施した陸奥湾日英共同観測実験 (MUBEX) などの人工衛星との同期観測実験に、海水温度鉛直プロファイル観測ブイや観測船に搭載する各種測定器などを学生さんの力を総動員して開発して参加いたしました。

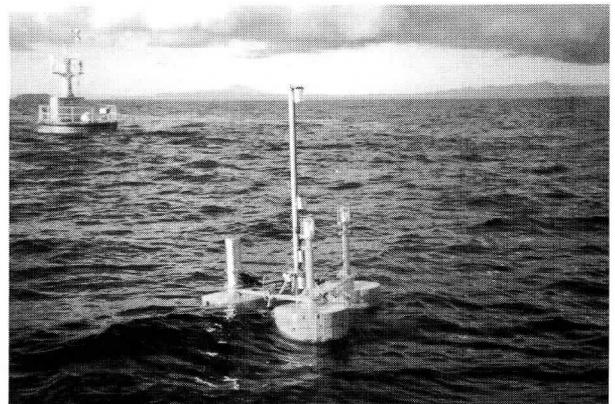


写真2 1992年のISY用に開発した鉛直温度測定ブイ (大学ミュージアム前に展示)

MUBEX では、研究室スタッフと学生の日本チームとイギリスのチームとが青森の造船所の片隅のドックハウスに雑魚寝してホカ弁を食いながら終日観測を続けて夏休みを過ごした日々が忘れられません。

1980年以降は、UNIX を OS としたワークステーションとネットワークとが普及し始め、研究室もこれらを導入しました。研究が高度化するに従い、より高性能のワークステーションや、RAID などが沢山導入され、私がこれらの面倒を一手に引き受けることとなりました。

また、この時期はスタッフも多く、企業との共同研究や海外での現地調査等々、学生さんを含めて色々なことが体験出来た時期であり、研究室の学生さんはとても恵まれた環境の中におりました。しかしながら、それなりに成果も要求される厳しい面もありましたので、いろいろな思い出をお持ちの方も多いかと思います。

2000年以降には、考古学にGISや画像処理などの情報技術を取り入れたベンチャー企業(株式会社ランゲ)を設立することとなり、私も三次元形状測定器の開発などを行い、生産技術部門の立ち上げのお手伝いをいたしました。

現在の私は、関係各位のご厚意により宇宙航空研究開発機構(JAXA)と岩手大学との共同研究プロジェクトの一員として岩手大学地域連携推進センター・リモートセンシング実用技術開発室において研究に従事しております。

さて、こうして41年を振り返ると、趣味の無線屋からスタートして、電子回路屋、コンピュータ屋、計測屋、システム屋と仕事の内容が年代とともに変わってまいりましたが、それぞれの時期においてご指導いただいた先生や先輩諸兄、ライバルとして切磋琢磨した同僚、企業の技術者、大いに力を貸していただいた、時には師であり友であり悪友でもあった学生さんの存在が思い起こされます。私事で恐縮ですが、最近では電子回路屋に戻り、長年ためていたジャンク部品による真空管アンプ作りを楽しんでいます。

末尾ではありますが、41年の永きにわたって職を全うできたことは、ひとえに教職員の皆様、ならびに一緒に過ごした学生の皆様のご厚情の賜と深く感謝申し上げますとともに、皆様のご健勝とご発展を祈念させていただきます。



－草刈賞－

「草刈賞」選考要項

平成16年1月7日制定
工学部学科長会議承認

1. 趣 旨
盛岡高等工業学校（岩手大学の前身）電気科教授・初代科長、岩手大学工学部教授及び第4代、第7代工学部長として岩手大学の発展に貢献された草刈遜先生のご生誕100周年を記念して、草刈先生ご生誕100周年記念事業実行委員会からの寄附により、工学部に「草刈賞」を設置する。
 2. 目 的
草刈先生の教えを後世に伝えるとともに、意欲的な学生生活を送った者を表彰し、その栄誉を讃えることを目的とする。
 3. 表彰対象者
表彰対象者は、工学部電気電子工学科及び情報システム工学科（以下「両学科」という。）を卒業予定の学生のうち、学生の模範となる学生生活あるいは後輩の目標となる学生生活を送った者で、原則として両学科各3名以内とする。
 4. 選 考
 - (1) 受賞候補者選考のため、「草刈賞」選考委員会（以下「選考委員会」という。）を置く。
 - (2) 選考委員会は、両学科の学科長、両学科から選出された教員各1名及び電気電子情報科会から選出された者2名の計6名で構成する。
 5. 受賞候補者の推薦
両学科の学科長は、受賞候補者を推薦理由書を付して選考委員会に提出する。
 6. 選考結果
選考委員会は、選考結果を学部長に報告する。
 7. 表 彰
受賞者には、表彰状及びメダルを贈呈する。
 8. 表彰の時期
受賞者の表彰は、原則として卒業式当日に行なう。
 9. その他
本要項に定めるもののほか、実施に関して必要な事項は、別に定める。
- 附 則
本要項は、平成16年1月7日から施行し、平成15年度卒業生から適用する。

草刈賞に佐藤淳先生ご寄付

「草刈賞」につきましては、会誌「きたかみ」50号、51号、52号に設置経過等その詳細が報告されていますので皆様ご存じのことと思いますが、草刈賞は「草刈遜先生ご生誕100年記念実行委員会」が草刈賞設置を目的にして基金を岩手大学に寄贈したことを受け、平成16年1月に岩手大学によって制定されたものです。岩手大学では、電気電子工学科および情報システム工学科を卒業する学生の中から賞の目的にふさわしい学生を表彰することとし、寄贈された基金を元に立派な記念メダルと表彰状をおよそ10年分用意しました（きたかみ52号を参照して下さい）。11年日以降の維持につきましては見通しがありませんでしたが、大学では草刈賞基金受け入れの準備はできており、何時でもどなたでも寄付できる状況になっています*。

早いもので、草刈賞は来年で発足から6回目の表彰を迎えます。10回目というのも間もなくのことです、その後は自然消滅してしまうのかどうか大学側としても心配していたようです。そのような折り、平成18年2月、佐藤淳先生から草刈基金に「50万円」のご寄付がございました。佐藤先生は電気工学科教授、工学部長などを歴任され、岩手大学の発展に大きく貢献された先生です（きたかみ52号を参照して下さい）。佐藤先生は草刈先生を大変尊敬なさっておられ、草刈賞の存続を願って、ご自身が80歳になった記念としてご寄付なさったとうかがっております。これで草刈賞はさらにしばらく存続できることとなりました。

科会の皆様にも広くお知らせし、佐藤先生に感謝申し上げる次第です。

*奨学寄付金という名目ですが、目的として“「草刈賞」のため”と記入していただければ結構です。

第4回草刈賞受賞者の紹介

第4回草刈賞受賞者は下記の通り（メダル番号、受賞者氏名、受賞理由の順）。

第4回草刈賞（平成18年度）のメダル番号は014～016、メダル番号はメダルに刻印され、次年度以降は続き番号となる。（平成19年1月22日選考委員会決定、平成19年2月2日付で選考委員会報告書を工学部長に提出、平成19年3月23日工学部長名で草刈賞授与）

《電気電子工学科》

014 下河原 孝夫（しもかわら たかお）

平成17年と18年「岩手大学ロボットコンテスト実行委員会」委員。平成17年度には「Let'sびぎんプロジェクト」の中心メンバーとして「岩手大学ロボットコンテスト」を立案計画し、「岩手大学ロボットコンテスト in 北上」を始めとして、16件のイベントを開催し、その運営に大きく貢献した。実行委員会委員の全面的な協力の下に行った16件のイベントにおいて、参加した小中学生並びにその保護者から高い評価を得た。

岩手大学大学院工学研究科に進学、将来への更なる活躍を期している。

《情報システム工学科》

015 佐々木 隆行（ささき たかゆき）

課外活動として、岩手大学弓道部に所属し、2年次から3年次まで主将をつとめた。主將在任中の平成17年（3年次在学時）、東北地区秋季学生弓道大会2部リーグ戦で、男子は優勝、女子は準優勝を果たした。

「ネットワーク魚眼カメラに関する研究」を卒業研究課題として、魚眼カメラで捉えた広域画像を、WEB上で処理するシステム構築に取り組んだ。

三井石油に就職。弓道部員は勿論のこと、級友からの人望も厚い。

016 笹本 益民（ささもと ますみ）

課外活動として、岩手大学少林寺拳法部に所属し、3年次には同部の主将を務めた。主将を務めた2006年3月、少林寺拳法部の活動実績を称え（財）少林寺拳法連盟本部表彰、並びに岩手大学長表彰を受けた。

同年6月、少林寺拳法東北学生大会において、優秀拳士賞を個人受賞した。

「高分解能デジタルホログラフィに関する研究」を卒業研究課題として積極的に取り組んだ。

岩手大学大学院工学研究科に進学し、研究を深めている。正に、文武両道を地で行く好青年である。

《草刈賞選考委員会委員氏名》

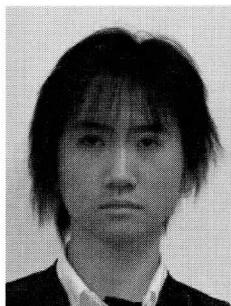
電気電子工学科 ；山田弘学科長、久保田賢二講師

情報システム工学科；西山清学科長、今野晃市助教授

電気電子情報科会 ；佐々木喜八郎（会長）、太田原功（相談役）

草刈賞を受賞して

電気電子工学科 下河原 孝夫



草木の榮枯を覆い隠すように辺り一面が雪景色に染まり始めた平成18年の冬、指導教官から草刈賞の受賞候補者に選ばれたとの話を伺い、その時に初めて「草刈賞」という存在を知りました。卒業式の後に、第4回草刈賞の受賞者として表

彰されましたが、歓天喜地の面持ちから早一年が経とうとしています。現在は同大学院に進学し、勉学に勤んでおります。

受賞要因となりました「ものづくり」という活動は、学部3年の時に初めて参加しました。当時はまだ認知度も低く後ろ盾も少なかったので、活動資金を集めるところから始まりました。少ない予算で試作品を製作し、完成すれば低コスト化に励み、目途がいたら小学校等に広報活動と忙しい日々でした。開物成務の苦労も

あって、従来市内数ヶ所に留まっていた活動規模を、県内各地で製作教室やロボットコンテストを行えるまでに拡大することができました。

4年そして大学院に進学してからは、優秀な後輩との出会いがあり、彼らの助けもあって、活動拠点をさらに拡大することができ、毎年数百人の子供達と触れ合うようになりました。また、メディア各方面の取材によって知名度が上昇し、現在では県内各地を東奔西走するまでに至りました。この活動が、ゆとり教育や子どもの理科離れといった社会問題解決の糸口になり、日本の「ものづくり」を支える人材育成に繋がるものになれば幸いと思っております。

こういった活動は、「かたち」としては残りにくく雲煙過眼の如く消えやすいものです。それを「草刈賞」という自分の人生や活動の歴史に残る「かたち」として表彰され、具現できたことを大変光栄に思います。

情報システム工学科 笹本 益民



平成18年度の草刈賞を受賞して、私の大学における4年間のこのような形で評価を得たことを非常に光栄に感じています。

そもそも学部時代の4年間は、まさに少林寺拳法部に捧げた4年間とって過言ではありませんでした。

3年次における主將在任期間も、周囲の期待に応えるべく必死であったと思います。自分のような人間が主将を務め、このような賞をいただけたのも、全て周囲の援助があればこそでした。私達を指導してくださった山崎前監督、松浦監督、コーチ、先輩方、私達を信じてつけてくれた後輩達、そしてなにより共に苦難を乗り越えてきた27代幹部の仲間達に、この

場を借りてお礼を述べさせていただきます。

現在、私は大学院に進学し、吉森久先生の指導の下で光学について研究活動を行っています。光学という分野は専門性が高く、そのため私も勉強の日々が続いています。19年度に入り、実験責任者として実験系を任され、それが抱える問題点の検証に長い時間を費やしてきました。最近ではようやく進展が見え、学会発表に向けて鋭意取り組んでいます。研究で成果を挙げ、母校と研究室の発展の力になればと思います。

私にとって草刈賞受賞はこれからの飛躍のための榮譽ある通過点と思っています。その榮譽を胸に、学部と大学院を通して部活、研究の両方に力を注ぐことで文武両道を実践し、自信を持って社会に出ていきたいと考えています。

第1回（平成15年度）受賞者名

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 001 上和野 大 輔（かみわの だいすけ） | 002 菊 池 孝 信（きくち たかのぶ） |
| 003 澤 田 定 秀（さわだ さだひで） | 004 須 藤 功 平（すとう こうへい） |
| 005 劉 路（りゅう る） | |

第2回（平成16年度）受賞者名

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 006 阿 部 雅 浩（あべ まさひろ） | 007 高 橋 拓 未（たかはし たくみ） |
| 008 菅 原 潤（すがわら じゅん） | 009 小野寺 博 晃（おのでら ひろあき） |

第3回（平成17年度）受賞者名

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------|
| 010 Latifah Binti MOHAMED（ラティファ モハメド） | |
| 011 甚 野 信 雄（じんの のぶお） | 012 高 橋 俊 一（たかはし しゅんいち） |
| 013 中鶴間 愛（なかつるま あい） | |



草刈メダルと賞状

これと同じメダルを記念にほしいという会員の希望により用意しました。1個6,000円（通し番号なし、賞状なし）。購入希望の方は事務局まで

電気電子工学科の近況

電気電子工学科 学科長・専攻長 田山典男

会員の皆様には、ご健勝にてお越しのこととお慶び申し上げます。

岩手大学は、ご承知のように法人になり、今年度から教員の所属を一元化する「学系」と呼ぶ新しい仕組を発足させました。組織の大きな変革のときを迎えております。

電気電子工学科の近況について紹介します。電気電子工学科の入学定員は60名ですが、高専からの3年次編入が約10名あります。大学院の入学定員は14名ですが、希望者が多く今年度入学生は39名でした。ところが次年度からは、国の方針で、入学者数増減を定員15%以内に限定することとなりました。特に学部の入学生に対して大学運営費と連動させるという厳しい制限状況となりました。

長年に亘って電気工学科に勤務されました技術職員の板垣稔さんと、菊地新司さんが、定年退職されました。昨年1月に岡英夫先生が、4月に恒川佳隆先生が、准教授から教授に昇任されました。両教授の活躍が期待されます。東北大学博士課程を修了された新鋭の高橋和貴助教が、電気エネルギー分野に着任されました。技術部計測技術分野から志田寛さんが来られて、学生実験実習に協力頂いております。

次に、学科の研究について分野等を簡単に紹介します。①超伝導薄膜の作成とデバイス開発(道上)、②磁性木材の電波吸収ボードと木質機能(岡)、③地上波デジタルテレビ放送アンテナ(久保田)、④産業用CT原理と超並列処理(田山)、⑤高性能信号処理プロセッサ(恒川)、⑥温度の計測と制御(長田)、⑦レーザー応用の超高感度磁気計測(大坊)、⑧シミュレーションとVRによる制御装置最適設計(佐藤)、⑨プラズマの高密度化と材料の高品位化(藤原)、⑩固体内核反応の基礎研究(山田)、⑪パルスパワー技術や放電プラズマを用いた環境浄化(高木)、⑫凝集系における低エネルギー核反応

(成田)、⑬マイクロプラズマの実験と理論(向川)、⑭プラズマ中粒子加速機構と電気推進機への応用(高橋)。

製品の開発には、多くの分野の知恵や工夫が必要と思いますので、関連がございましたら、是非担当者にご連絡下さい。

次に、教育活動ですが、本学科はデジタル革命やグローバル化に対応して「もの作りができ、デジタルが分かる人材」の育成を目指して、カリキュラムを拡充しました。LSI設計試作の大型設備予算を全国に先駆けて導入し、学生1人1台で、高度な実践能力を養成しています。また、今年も卒業生5名のご協力を戴きまして「社長実践学特別講義」を実施しました。学生から大変好評であり、厚く御礼申し上げます。学生就職については、昨年9月希望者全員が内定しました。これは会員皆様のお陰様であり、感謝に堪えません。

最近、少子化や高校生の理科離れが進み、入試の受験倍率が、軒並み減少しています。今以上魅力ある学科にするため努力をしていく所存です。今度、「学科ホームページ」を一新しました。是非、訪ねてみて下さい。卒業生諸兄の皆様には色々な形でご支援賜りまして、心から御礼を申し上げます。

<http://dragon.elc.iwate-u.ac.jp/>

工学部では、平成21年度からを目指して、工学部・工学研究科の「改組」を計画中です。現時点で未定ですが、電気電子工学科と情報システム工学科が統合しまして、学部学生が120名、大学院40名の大学科が誕生する可能性があります。情報の新専攻に10名が計画されています。

最後になりますが、会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り致しますと共に、今後とも、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

情報システム工学科の近況

情報システム工学科 学科長・専攻長 渡 邊 孝 志

電気電子情報科会員の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。それでは情報システム工学科の近況を報告致します。

本学科の現在の教員スタッフは教授6名、准教授・講師8名、助教6名の計20名です。李仕剛准教授は平成19年10月1日付けで鳥取大学工学部に教授として転任されました。後任の教員は現在公募中です。技術職員の相馬孝志さん（工学系技術室副技術室長）は平成19年3月31日付けで定年退職されました。お二人の本学科に対するこれまでの多大なご尽力とご貢献に対して深く感謝申し上げます。なお、平成17年3月に定年退職された横山隆三先生は続けて岩手大学特任教授としてリモートセンシングの研究を行っておられ、平成19年4月23日には宇宙航空研究開発機構(JAXA)からの地球観測衛星「だいち」地域実利用に関する受託研究の成果発表会を開催されるなど、元気にご活躍中です。

次に、研究面について述べます。当学科では若手教官も増え、研究活動が活発に行われており、学術論文だけでなく、国際会議発表の件数も増加しております。国際交流の研究活動も盛んで、千葉則茂教授が中心となってメディアシステム学分野でモンゴル科学技術大学と部局間交流協定を締結しました。第23回NICOGRAPH論文コンテスト（芸術科学会）で和田謙大君（M2、指導教員：今野晃市准教授）が最優秀論文賞を、山本拓哉君（M2、指導教員：今野准教授）と佐々木克君（M1、指導教員：千葉教授・藤本忠博准教授）が優秀論文賞をそれぞれ受賞しました。そして、他の研究室も注目を集める研究成果を多数発表しており、これからの展開がますます楽しみな状況にあります。

平成19年4月より、岩手大学は新たな教員組織としての「学系制」に移行しました。全教員は学部ではなく11学系のいずれかに所属し、学科・博士前期課程・博士後期課程が担当教育職務ということになりました。これによって学部間の壁をなくし、全学的に人的資源を有効活用する体制の確立を目指すものでありますが、そのためには各教員の一層の意識変革が求められていると言えます。本学科の教員は機械工学科・電気電子工学科の教員と一緒に「システム理工学系」（全部で65名）に所属しております。学系としての最初の活動として、平成19年9月10日に千葉教授の音頭取りで、システム理工学系主催・盛岡市後援のシンポジウム「組み込み時代の教育・研究と地域連携－インテリジェントな“装置や環境”のための工学技術－」を開催しました。会場は平成19年8月1日に岩手大学工学部敷地内にオープンした「盛岡市産学官連携研究センター」（略称：コラボMIU）で開かれ、2件の招待講演と27件の発表が行われ、盛況でした。そして、このシンポジウムをきっかけに、新たな産官学の連携研究会として「いわてインテリジェントシステム研究会（略称：IIS研究会）」が発足して活動を始めました。今後の発展に期待したいと思います。

学内の管理運営では、西谷泰昭教授が学部長特別補佐、千葉教授が地域連携推進センター長、安倍正人教授が金属材料保全工学研究センター長、私（渡邊）がシステム理工学系長、としてそれぞれ参与しております。

教育面では、現在、博士後期課程にはD1が4名、D2が4名、D3が6名在籍しており、博士前期課程にはM1が29名、M2が25名在籍しております。学部の4年生は68名が研究室に在籍しております。学生の就職状況について

は、お陰様にて多数の企業から求人申し込みを頂いており、極めて順調に内定を得ております。最近、学校推薦より自由応募を希望する学生の方が多くなっていますが、特に学部学生は学校推薦に窮屈さを感じているようです。

社会貢献の面では、高校に出かけて出前講義を行うことが増えています。今年度は藤本忠博准教授が宮城県立仙台西高校で「コンピュータ・グラフィックスについて」、渡邊が秋田県立秋田中央高校で「人工知能について」をそれぞれ講義しております。

本学は平成16年度に国立大学法人となりましたが、法人化後の中期目標期間（平成16～21年度）の評価が平成20年中に行われることになりました。本学科では西谷教授が中心となって各種報告書の作成に忙しい毎日を送っております。法人化後の教員の業務変化の中でこれらの説明責任に関する事務作業量の増大は最も顕著なものの一つです。

法人化によって国立大学は今後どう変わって行くのでしょうか。そもそも国立大学の法人化を促した根本原因は我が国の財政危機です。国に余裕がなくなり、大学等の高等教育に投資される資金は縮小せざるを得ず、今後は「選択と集中」を基本とする方針に転換して、その具現化プロセスを市場原理に委ねようと考えたと思われまます。実際、大学への入学希望者総数が入学定員総数を下回る「大学全入時代」を迎えたのにも拘らず、大学・学部新設の設置審査は相変わらず大幅に緩められたままであり、大学の生き残りは文部科学省の管理責任にあらず、大学自身の責任であると言っています。事実、大学の「倒産」という事態が生じてきています。国立大学の法人化はその流れの中にあり、国立大学といえども生き残りを問われる時代になってしまいました。それと引き換えに国立大学は、今までよりも大学運営に関して若干の自由度を得ただけというのが実情です。「選択と集中」は地球規模でグローバル化した市場での企業の

生き残り戦略を象徴するキーワードです。ここでは「評価」が極めて重要となりますが、これが日本人にとってかなり苦手な課題であることは某通信機メーカーがいち早く導入して失敗したことで有名な「成果主義」に基づく人事評価制度を挙げれば明らかでありましょう。特に、短期の近視眼的評価でなく、長期的戦略に立った複眼視的评价の確立が大きな課題です。文部科学省による世界的研究拠点の形成を目的とした21世紀COEプログラムや、大学の構造改革の促進を目的とした教育支援プログラム（特色GP、現代GP）も、評価の視点が流行に流され易く、話題性と人気とりの政策の感が強く、実効性は疑問です。そうした中で、岩手大学はどのような生き残り戦略を採るべきかが問われているのですが、旧帝大のような大規模大学と同じ戦略は当然採り得ません。本学が標榜する「地域とともに生きる」はその存在意義を地域に置いた形で個性化を図るという意味で無理のない妥当な選択と言えましょう。流行を追う戦略では大規模大学に敵う訳がありません。中規模以下の大学は基礎研究で特色を発揮すべきです。基礎研究は試行錯誤そのものです。各研究者が自身の信念と価値観に基づいて様々な可能性を追求することが大事ですが、それは成功を約束されるものではありません。ブレークスルーをもたらすためには、一見無駄にもみえる膨大な数の試行錯誤を伴うこの非効率な過程が不可欠であり、それが本質的に可能な場は大学だけです。「選択と集中」は大学には相応しくありません。従って、基礎研究重視の大学風土を堅持することは極めて重要であり、民間企業に基礎研究を行う余裕がない現在こそ、このことを大学人は改めて確認する必要があると考えます。

私ども教員一同は、これからも教育研究に一層の努力をして参ります。どうぞ、会員の皆様には今後も変わらぬご支援とご鞭撻をお願い致します。（平成20年1月記）

平成 19 年度電気系学科の構成員名簿

電気電子工学科 (学科長 田山典男 教授)			情報システム工学科 (学科長 渡邊孝志 教授)		
講座	職 名	氏 名	講座	職 名	氏 名
電子デバイス工学	教授	道上 修	計算機システム学	教授	厚井 裕司
	教授	馬場 守*		教授	安倍 正人
	教授	岡 英夫		教授	西谷 泰昭
	准教授	西館 数芽*		准教授	永田 仁史
	講師	久保田 賢二		准教授	鈴木 正幸
	助教	叶 榮彬*	講師	平山 貴司	
		*フロンティア材料 機能工学専攻所属	助教	藤岡 豊太	佐藤 信
電子システム工学	教授	田山 典男	知能システム学	教授	渡邊 孝志
	教授	恒川 佳隆		教授	西山 清久
	准教授	長田 洋		准教授	吉森 譲二
	准教授	大坊 真洋		講師	三輪 村彰
	助教	佐藤 宏明		助教	盧 忻司
電気エネルギー工学	教授	藤原 民也	メディアシステム学	教授	千葉 則茂
	教授	山田 弘		教授	藤本 忠博
	准教授	高木 浩一		教授	今野 晃市
	准教授	成田 晋也		助教	荒木 徹
	助教	向川 政治		助教	原美 オサマ
	助教	高橋 和貴		事務補佐員	懸田 ひかる

技 術 部					
講座	職 名	氏 名	講座	職 名	氏 名
工学系技術室	技術専門員	千葉 茂樹	情報技術室	副技術室長	阿部 英志
	技術専門職員	太田 康治		グループリーダー	那須川 徳博
	技術専門職員	萩原 由香里		技術専門職員	栗田 宏明
	技術専門職員	庄司 こずえ		技術職員	田頭 徹
	技術職員	志田 寛		技術職員	村上 浩平
			技術職員	金野 哲士	

平成19年度東京支部大会

東京支部長 澤 藤 隆 一

昨年から東京支部大会は隔年開催から毎年になり、平成19年10月13日(土)本郷の東京大学工学部前・鳳明館森川別館で盛大に開催されました。これまではパーティ会場で行ってききましたが、趣向を変えて畳の間で車座になって語り合うという、東京都内では珍しいシチュエーションで、大変な盛り上がりでした。鳳明館本館は文化庁の登録有形文化財に指定されていて、内部の壁、天井、梁、床の間などや調度品一つひとつに昔の職人の心意気が見て取れる芸術的な造りです。森川別館も由緒ある、古式豊かな建物でした。参加者は52名、大会では

- 1) 平成18年度活動報告、決算報告、監査報告(承認事項)
- 2) 平成19年度活動計画審議(決議事項)
- 3) 平成19年度役員選出
- 4) その他

を審議し、いずれも提案通り承認されました。役員体制は平成18年の支部規約改正により、任期が4年→2年となりましたが、昨年改選された役員は全員重

任、新たに事務局として飛世政和氏に加えて若手の加瀬貞二氏(電子H4年)が就任することが拍手で承認されました。

右写真のように平成18年春の叙勲で通信事業に対する貢献に対し、瑞宝小綬章を授章された櫻井國雄氏(S24専9)のお祝いも行いました。

懇親会では科会から佐々木会長、柏葉理事、一祐会から太田原会長、田山事務局長がお見えになり、一祐会在京他支部:東京金属物性科会、東機会、きたかみ会から5名のご来賓の出席を頂き、2次会もそのまま別室を借りて盛り上がりました。おいしいお酒の差し入れを下さいました方々に感謝いたします。

他に岩手大学が催すフォーラム等行事への参加、大学での講演を行いました。平成20年は現役世代を主ターゲットに仕事に役立つセミナー、熟年世代を主ターゲットに健康、お金の運用、ボランティア活動等、生活に役立つセミナーを企画します。どうぞご期待ください。各種情報は支部ホームページで…一祐会在京他支部と相互交流して各支部総会の模様もホームページに掲載し、各科の会員の皆様にご案内しています。あたかも一祐会東京支部のホームページの如き役割を果たしております。検索エンジンで **IUEEITOKYO** と入力して下さい。



平成 19 年度仙台支部総会

仙台支部長 齋藤 健

仙台支部総会が平成 19 年 7 月 21 日（土）16 時「ハーネル仙台」にて実施されました。

総会は、本部の佐々木会長、岡電気電子工学科教授、を迎え、さらには特別講演者の太田原名誉教授、飛び入り参加の東京支部柴田副支部長、支部会員 32 名の合計 36 名出席により開会し、齋藤支部長の挨拶、来賓である佐々木会長の挨拶の後、事業報告、横井会計幹事の報告と千葉監事の監査報告があり、これを承認しました。

引き続き、太田原功名誉教授による特別講演「教育は興育である」を実施し、岩手県立産業

技術短期大学長時代のご経験に基づいての教育の大切さ・原点などについて聴講致しました。

懇親会は、場所を変え、齋藤支部長の挨拶、来賓である岡英夫教授のご挨拶の後、出席者の中で最年長の阿部源祐相談役（昭和 16 年専門 1 回）の乾杯の発声により開会されました。

懇親会には、東京支部長の澤藤隆一氏（昭和 47 年電気 20 回）も駆けつけ、夫々の近況や持論の主張、夢などについて激論を交わし、惜しみながら学生歌で締め、大盛況のうちにお開きになりました。



金田博臣 電気 18	小原左武生 電気 10	門傳典彦 電電院	宮下忠義 電気 27	浦田 寛 電気 11	中村真史 電気 43	久保喜紀 電気 10	横井哲夫 電気 16		
平山典明 電子 2	野坂武弘 電気 16	阿部紀行 情報 15	木村晃彦 電電 5	野口久弥 電気 26	岡本康之 電気 11	高橋 登 電気 4	田中利光 電気 26		
小林榮松 電気 6	一条昭夫 専門 9	鈴木辰三 専門 7	五嶋達雄 専門 7	小原 典 専門 7	藤原昭二 専門 7	古村 光 電気 7	小原四郎 電気 10	伊藤彰八 電気 4	千葉浩克 電気 13
石倉麗子 電電 6	千葉智行 電気 1	阿部源祐 専門 1	太田原功 電気 3	齋藤 健 電気 11	佐々木喜八郎 電気 1	岡 英夫 電子院 4	澤藤隆一 電気 20	柴田隆昭 電気 10	

平成 19 年度 岩手大学電気電子情報科会 仙台支部総会

平成 19 年 7 月 21 日
ハーネル仙台

平成 19 年度盛岡支部総会

盛岡支部長 歳 弘 健



平成 19 年度の盛岡支部総会は、平成 19 年 6 月 9 日（土）「いわて国保会館」にて、本部総会に先立って行なわれました。歳弘盛岡支部長の挨拶の後、次のとおり議事を行ないました。

第 1 号議案

平成 18 年度事業報告

1. 支部総会を平成 18 年 7 月 8 日に盛岡市 “エスポワールいわて” で行ないました。イベントとして「鎌田徳美先生・入江泰先生の思い出を語る会」を開催、お写真などをスライドで写映し、座談会形式で思い出を語り合いました。

2. 総会への会員の出席状況が思わしくなく、特に若年層が著しい。今年度本部から盛岡支部に、活性化促進のための特別費として 10 万円配布された（今年度限り）。そこで次のような対策を講じた。

① HP の開設：情報の伝達としては、手早くまた何時でも見られるのが最適である。また若年層には特に有効であると思われる。現在ソフトを購入し作成中である。

② 学年幹事の就任：該当する会員へ就任依頼をしているが返事待ちの状況である。

③ 今回の総会に出席する学生の会費を負担し無料にする。：総会への出席はなかった。

3. 見学会の実施：態勢を整え中のため実施しなかった。

第 2 号議案

平成 18 年度事業決算書・同会計報告

以上 2 案について異議なく承認された。

第 3 号議案

平成 19 年度事業計画（案）

1. 最近会員の出席状況が思わしくなく、特に若年層が著しい。今年度は昨年度に引き続き次のような対策を講じ実施する。

① HP を開設して情報を流す。

② 学年幹事の就任を促す。

③ 今回の総会に出席する学生の会費を負担し無料にする。

2. 見学会の実施

第 4 号議案

平成 19 年度事業予算（案）

以上 2 案について異議なく承認された。

第 5 号議案

平成 19 年度役員（案）

支部長	歳 弘 健	S33 年電気
理 事	細 川 哲 男	S24 年電気
理 事	旗 福 寛	S38 年電気
理 事	及 川 二千朗	S38 年電気
理 事	井 上 隆 志	S40 年電気
理 事	塚 本 英 雄	S45 年電気
会計監査	立 花 龍 一	S61 年情報
相談役	高 木 三 郎	S17 年電気
相談役	佐々木 喜八郎	S28 年電気

昨年度に引き続き留任を承認された。

以上で総会は滞りなく終了しました。

昨年から懸案事項である幹事の委嘱は、現会則では会員の推薦によることとなっていますが、市内 200 人の会員に案内状を出して就任を促しましたが、思わしくなく進展せずにあります。

これを打開するには本部と協議し、役員会の推薦で選出出来るように会則の改定を行ない、強力な推進体制を整えたい所存です。どうか皆様の絶大な支援をお願いいたします。

平成 19 年度電気電子情報科会総会

平成 19 年度岩手大学電気電子情報科会総会は、平成 19 年 6 月 9 日（土）盛岡市大沢川原の国保会館において、35 人の出席で行われました。

長田洋理事の司会で、佐々木喜八郎会長のあいさつに続き、電気電子工学科学科長代理岡英夫教授、情報システム工学科学科長渡邊孝志教授にご祝辞をいただきました。

議長に南幅留男副会長（電子 45 年卒）、書記に木村彰男理事（情報平成 3 年卒）が選任され、議事は議長の進行のもと、ほぼ原案通り承認、可決されました。

決算報告で、収入支出のアンバランスに関する質問がありましたが、卒業生が増えるに従い、新入生からの入会費のみの収入では、事業が成り立たないので、年会費（10 年会費）を徴収し、それを繰り入れてバランスを保っている、よっ

て年会費納入のご協力をお願いするとの回答があり、了承されました。

続いて講演会が開催され、井上隆志氏（電気 40 年卒）より「地上デジタル放送とは」、杉本務氏（電気 33 年卒）より「地上デジタル放送の実情」という演題で時宜を得た講演をいただきました。

その後の懇親会は、千葉副会長の司会で、新旧会員が和やかに楽しい一時を過ごしました。最後に柴田東京支部副支部長のリードで、岩手大学学生歌「花ふふみたる」を合唱し、意気の揚がったところで締めとなりました。

例年、岩手大学電気電子情報科会総会は、岩手の大きな行事である「チャグチャグ馬コ」当日です。地元の会員はもちろん、遠方のみなさまのご参加をお待ちしております。



杉本 務 S33 気 6 佐藤文昭 S59 子 15 柏葉安兵衛 S38 気 11 篠福 寛 S38 気 11 及川二千朗 S38 気 11 南幅留男 S45 子 1 武田寿郎 S41 気 14 田中行男 S45 子 1 岡山茂久 S45 気 18 遠藤敏夫 S52 気 25 宮下忠義 S54 気 27

韓 少輝 H19 電電 12 松尾信宏 H19 電電 12 佐藤 充 H6 気 42 木村彰男 H3 情 13 久保田賢二 S42 気 15 寺井正行 S41 気 14 太田原功 S30 気 3 小野寺瑞穂 S29 気 2 千葉則茂 S50 気 23 村上由彦 S45 子 1 柴田隆昭 S37 気 10 佐藤 匡 S40 気 13 立花龍一 S61 情 8

井上隆志 S40 気 13 齋藤 健 S38 気 11 澤藤隆一 S47 気 20 歳弘 健 S33 気 6 佐々木喜八郎 S28 気 1 渡邊孝志教授 来賓 岡英夫教授 来賓 阿部源祐 S16 専 1 小沢甚一郎 S18 専 3 柳橋好子 S45 子 1 長田 洋 S62 気 35 S48 電子院 4

平成 19 年度 岩手大学電気電子情報科会総会

平成 19 年 6 月 9 日
国保会館

平成 19 年度岩手大学電気電子情報科会総会議事録

日 時：平成 19 年 6 月 9 日（土）15：00～

場 所：国保会館

出席者：35 人

1. 開会

2. 会長挨拶 佐々木喜八郎会長

3. 議長及び書記選出

議長：南幅 留男（S45 年卒業電子 1 回）

書記：木村 彰男（H3 年卒業情報 13 回）

4. 議事

第 1 号議案 平成 18 年度事業報告

第 2 号議案 平成 18 年度決算報告

事務局より上記 2 議案の報告の後、及川二千朗会計監査より「会計監査の結果、適性かつ正確であったことを認める」旨の報告があった。

その後、村上氏（電子 1）より基金の口座種類に関する質問、収入支出のアンバランスに関する質問があった。

事務局、会長より回答後、承認された。

第 3 号議案 平成 19 年度事業計画（案）

第 4 号議案 平成 19 年度予算（案）

事務局より上記 2 議案の説明があった後、一括審議した。異議なく、拍手で承認された。

第 5 号議案 平成 19 年度役員選出（案）

事務局より原案の説明があった。柴田氏（東京副支部長）より、出席率の悪い幹事については見直すべきとの意見があり、会長より「理事会で検討する」との回答があった。

会員間で活発な意見交換があった。

役員については最終的に承認された。

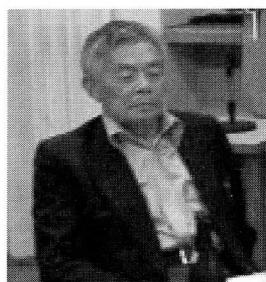
5. その他

宮下氏（電気 27）ほかより「今後の科会の発展のために、役員の皆様には精一杯頑張ってもらいたい」との要請があった。

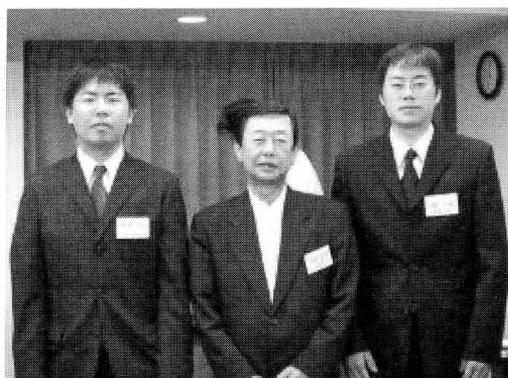
6. 閉会（16：00）



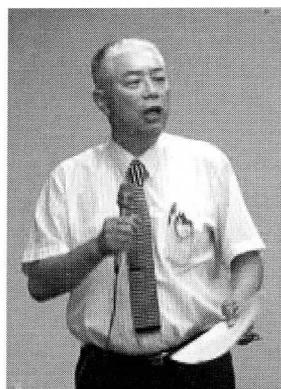
井上隆志氏の講演
「地上デジタル放送とは」



「地上デジタル放送の実情」
講師 杉本 務氏



若い会員さんからエネルギーをもらって！



学生歌のリード
柴田東京副支部長



小沢甚一郎氏の音頭で
“乾杯”

平成 19 年度電気電子情報科会役員名簿

(平成 20 年 1 月 1 日現在)

役職名	氏名	卒業(卒回)	勤務先	電話	
会長	佐々木 喜八郎	昭 28 (気 1)		019-654-1265	再任
副会長	南 幅 留 男	45 (子 1)		019-684-1332	再任
〃	千 葉 則 茂	50 (気 23)	岩手大学工学部情報システム工学科	019-621-6465	再任
〃	鳥谷部 達 雄	56 (情 3)	(株)アイシーエス	019-651-2626	再任
理事	小野寺 瑞 穂	29 (気 2)		019-647-4727	再任
〃	関 享 士 郎	34 (気 7)		019-662-2092	再任
〃	柏 葉 安兵衛	38 (気 11)	岩手大学地域連携推進センター	019-621-6388	再任
〃	井 上 隆 志	40 (気 13)		019-622-3497	再任
〃	田 山 典 男	41 (気 14)	岩手大学工学部電気電子工学科	019-621-6382	再任
〃	塚 本 英 雄	45 (気 18)	(株)アイシーエス	019-651-2626	再任
理事・事務局	柳 橋 好 子	45 (子 1)	(特)岩手県地域婦人団体協議会	019-648-6620	再任
理事・事務局	長 田 洋	62 (気 35)	岩手大学工学部電気電子工学科	019-621-6381	再任
理事・事務局	木 村 彰 男	平 3 (情 13)	岩手大学工学部情報システム工学科	019-621-6488	再任
理事・盛岡支部長	歳 弘 健	33 (気 6)		019-663-1284	再任
理事・東京支部長	澤 藤 隆 一	47 (気 20)	三基計装(株)	048-422-9201	再任
理事・仙台支部長	齋 藤 健	38 (気 11)	大和電設工業(株)	022-216-3111	再任
会計監査	及 川 二千朗	38 (気 11)			再任
〃	旗 福 寛	38 (気 11)		019-621-6364	再任
顧問	佐 藤 淳	特別会員		019-662-4563	再任
〃	志 田 純 一	〃		019-641-1203	再任
〃	佐々木 經 夫	〃	オーミ塗装工業	019-641-3355	再任
相談役(元会長)	阿 部 源 祐	16 (専 1)		022-273-0072	再任
〃	佐 藤 源 美	17 (専 2)		019-647-8271	再任
〃	高 木 三 郎	17 (専 2)		019-662-1198	再任
〃	岡 田 整 八	18 (専 3)	岡田電気(株)	019-635-1225	再任
〃	小 沢 甚 一 郎	18 (専 3)	自由業	019-663-4424	再任

役職名	氏名	卒業(卒回)	勤務先	電話	
相談役(元会長)	阿部長一	昭19(専4)		019-662-3324	再任
〃	細川哲男	24(専8)		019-623-7776	再任
〃	太田原 功	30(気3)		019-662-6866	再任
幹 事	村上佳次	20(専5)	東北有放興業(株)	019-622-6777	再任
〃	和田守之助	25(専9)	和田酒店	019-622-2422	再任
〃	金 孝 博	32(気5)		019-654-9351	再任
〃	庄子幸男	39(気12)	横河電子機器(株)	019-638-5211	再任
〃	外川俊隆	41(気14)		019-647-2302	再任
〃	久保田賢二	42(気15)	岩手大学工学部電気電子工学科	019-621-6385	再任
〃	平 孝 清	43(気16)	岩手医科大学	019-651-5111	再任
〃	宮手敏雄	44(気17)	岩手日報社	019-653-4111	再任
〃	池野正樹	46(子2)		019-662-6745	再任
〃	菊池政四	47(気20)	(株)川徳	019-651-1111	再任
〃	岡 英 夫	48(子院4)	岩手大学工学部電気電子工学科	019-621-6389	再任
〃	杉村洋一	49(子5)	いわて生協	019-687-1441	再任
〃	池内 達	50(子6)	岩手県企業局	0197-74-2141	再任
〃	今野幸洋	53(気26)	盛岡市役所	019-651-4111	再任
〃	千枝泰航	54(情1)	岩手県庁	019-651-3111	再任
〃	野崎明裕	55(気28)	岩手県庁	019-651-3111	再任
〃	藤尾 勉	56(子12)	岩手県企業局	019-661-4290	再任
〃	佐藤 信	57(子13)	岩手大学工学部情報システム工学科	019-621-6470	再任
〃	大沢 崇	59(情6)	(株)グレープシステム	019-635-0601	再任
〃	佐藤文昭	59(子15)	(株)IBC岩手放送	019-623-3119	再任
〃	泉澤 栄	60(子16)	盛岡セイコー工業(株)	019-692-3511	再任
〃	立花龍一	61(情8)	(株)アイシーエス	019-651-2626	再任
〃	高橋康浩	62(気35)	岩手県警察本部	019-653-5151	再任
〃	佐々木真嗣	62(子18)	(株)アイシーエス	019-651-2626	再任
〃	千葉明嗣	63(情10)	盛岡市水道部	019-623-1411	再任

年会費納入表

平成 20 年 1 月末現在

卒業年	電 気				電 子				情 報				卒業年
	卒業者数	請求者数	納入者数	納入率(%)	卒業者数	請求者数	納入者数	納入率(%)	卒業者数	請求者数	納入者数	納入率(%)	
S16	32	13	8	61.5	-	-			-	-			S16
S17	73	20	8	40.0	-	-			-	-			S17
S18	71	27	13	48.1	-	-			-	-			S18
S19	73	32	16	50.0	-	-			-	-			S19
S20	79	34	15	44.1	-	-			-	-			S20
S21	1	0	0	0.0	-	-			-	-			S21
S22	82	48	28	58.3	-	-			-	-			S22
S23	85	56	33	58.9	-	-			-	-			S23
S24	35	24	14	58.3	-	-			-	-			S24
S25	25	15	9	60.0	-	-			-	-			S25
S26	11	8	2	25.0	-	-			-	-			S26
S27	-	-		0.0	-	-			-	-			S27
S28	24	18	13	72.2	-	-			-	-			S28
S29	22	13	12	92.3	-	-			-	-			S29
S30	23	17	9	52.9	-	-			-	-			S30
S31	33	24	16	66.7	-	-			-	-			S31
S32	34	23	13	56.5	-	-			-	-			S32
S33	35	27	17	63.0	-	-			-	-			S33
S34	25	22	15	68.2	-	-			-	-			S34
S35	32	26	15	57.7	-	-			-	-			S35
S36	34	23	9	39.1	-	-			-	-			S36
S37	43	37	29	78.4	-	-			-	-			S37
S38	35	24	23	95.8	-	-			-	-			S38
S39	41	31	18	58.1	-	-			-	-			S39
S40	61	46	25	54.3	-	-			-	-			S40
S41	67	46	21	45.7	-	-			-	-			S41
S42	54	45	25	55.6	-	-			-	-			S42
S43	55	40	20	50.0	-	-			-	-			S43
S44	74	53	21	39.6	-	-			-	-			S44
S45	51	39	21	53.8	47	35	10	28.6	-	-			S45
S46	44	35	17	48.6	43	30	9	30.0	-	-			S46
S47	35	31	12	38.7	44	29	10	34.5	-	-			S47
S48	36	23	11	47.8	36	28	12	42.9	-	-			S48
S49	36	20	10	50.0	35	16	6	37.5	-	-			S49
S50	33	31	16	51.6	35	19	5	26.3	-	-			S50
S51	37	31	7	22.6	38	21	8	38.1	-	-			S51
S52	39	29	13	44.8	32	19	4	21.1	-	-			S52
S53	33	25	5	20.0	44	25	5	20.0	-	-			S53
S54	42	23	5	21.7	38	25	8	32.0	37	28	4	14.3	S54
S55	31	23	4	17.4	32	21	7	33.3	32	22	5	22.7	S55
S56	37	29	10	34.5	43	27	9	33.3	39	28	8	28.6	S56
S57	36	34	5	14.7	31	18	8	44.4	43	35	9	25.7	S57
S58	40	24	3	12.5	37	23	6	26.1	31	22	1	4.5	S58
S59	29	20	3	15.0	23	14	7	50.0	37	20	3	15.0	S59
S60	35	22	6	27.3	34	19	1	5.3	44	29	6	20.7	S60
S61	40	31	6	19.4	43	35	8	22.9	36	17	7	41.2	S61
S62	35	27	10	37.0	39	26	5	19.2	28	17	2	11.8	S62
S63	33	22	6	27.3	23	19	4	21.1	40	29	3	10.3	S63
H01	27	24	3	12.5	33	21	4	19.0	36	27	7	25.9	H01
H02	43	38	6	15.8	42	36	6	16.7	33	20	0	0.0	H02
H03	46	35	7	20.0	48	35	6	17.1	45	37	5	13.5	H03
H04	48	26	3	11.5	47	36	4	11.1	38	28	8	28.6	H04
H05	48	42	11	26.2	44	26	4	15.4	50	42	1	2.4	H05
H06	40	36	7	19.4	44	36	8	22.2	45	38	6	15.8	H06
H07	48	45	2	4.4	52	37	7	18.9	47	42	3	7.1	H07
H08	67	56	5	8.9	-	-		-	59	50	3	6.0	H08
H09	67	60	5	8.3	-	-		-	69	58	3	5.2	H09
合計人数	2395	1673	666	39.7	1007	676	171	25.3	789	589	84	14.3	合計人数

平成 9 年までの (学部卒業生)

全卒業者数	全請求者数	全納入者数	納入者/請求者
4191	2938	921	31.3%

教職員	大学院
3	1

平成 19 年 年表

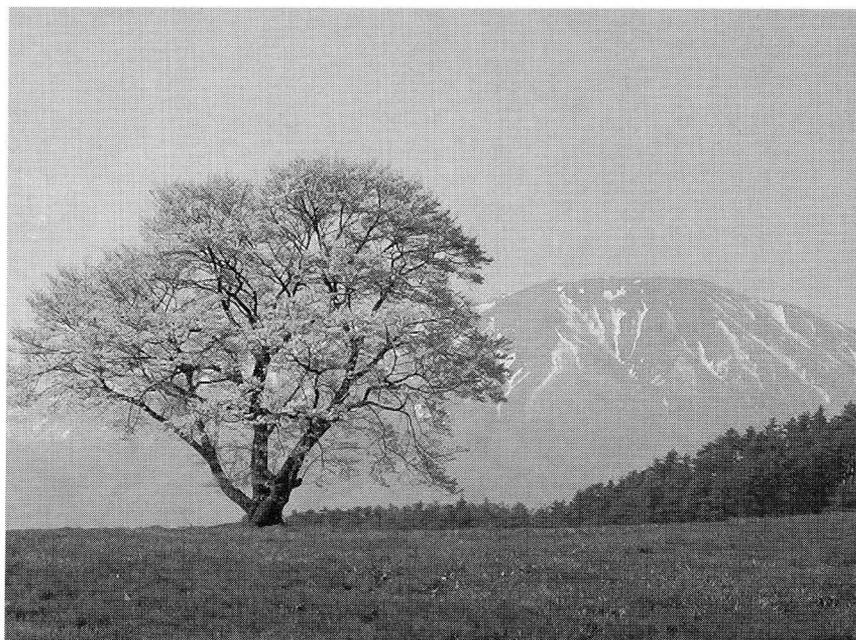
電 気 系 学 科		電 気 電 子 情 報 科 会	
1/12	平成 18 年度情報処理学会東北支部研究会	1/22	第 4 回草刈賞選考委員会 岩手大学電気電子工学科会議室 《草刈賞選考委員会委員氏名》 電気電子工学科； 山田弘学科長，久保田賢二講師 情報システム工学科； 西山清学科長，今野晃市助教授 電気電子情報科会； 佐々木喜八郎（会長），太田原 功 （相談役）
1/12	電気電子工学科経営実践学特別講義. 「半世紀に亘るサラリーマン生活を振り返って ～サラリーマンの心得～」， 池田隆夫氏（S35 年電気卒，富士通 エフ・アイ・ピー(株)前代表取締役社長）		
1/20-21	大学入試センター試験		
2/2	電気電子工学科特別講義／電気学会 東北支部学術講演会，「レールガン開 発の最前線：誘導性エネルギー蓄積 方式における新しい電流取り出し方 法」，橋本健男氏（H8 年電気電子卒， (株)日本製鋼所広島製作所）	1/27	平成 18 年度第 3 回理事会 （国保会館）出席者 14 人 各支部報告 草刈賞選考について 新入会員歓迎会について 「きたかみ」53 号の進捗状況につ いて 年会費徴収状況について 19 年度総会について その他
2/6	入学願書受付締切．電気電子工学科： 前期 1.8 倍，後期 6.9 倍，情報システ ム工学科：前期 1.8 倍，後期 6.8 倍		
2/6-7	平成 19 年度博士前期課程第 2 次入験. 電気電子工学専攻 16 名合格，情報シ ステム工学専攻 2 名合格		
2/8	平成 19 年度博士後期課程第 2 次入験. 電子情報工学専攻 4 名合格		
2/19	電子情報工学専攻博士論文審査発表 会（情報システム工学講座分）	2/15	「きたかみ」編集委員会 （岩手大学工学部電気電子工学科会議 室）
2/21	情報システム工学専攻修士論文審査 会		
2/22	情報システム工学科卒業研究発表会		
2/23	電気電子工学専攻修士論文審査会		
2/25	平成 19 年度個別学力検査前期日程. 電気電子工学科 48 名合格，情報シス テム工学科 46 名合格		
3/1	電気電子工学科卒業研究発表会	3/1	「きたかみ」53 号発行 5000 部
3/12	平成 19 年度個別学力検査後期日程. 電気電子工学科 8 名合格，情報シス	3/6	新入会員歓迎会打ち合わせ （岩手大学工学部電気電子工学科会議

3/23	<p>テム工学科 11 名合格</p> <p>岩手大学卒業式（岩手県民会館）。</p> <p>工学部第 55 回卒業生：電気電子工学科 73 名，情報システム工学科 68 名，情報工学科 1 名</p> <p>大学院工学研究科博士前期課程第 38 回修了生：電気電子工学専攻 29 名，情報システム工学専攻 32 名，情報工学専攻 1 名</p> <p>大学院工学研究科博士後期課程第 9 回修了生：電子情報工学専攻 7 名</p>	3/15	<p>室)</p> <p>新入会員歓迎会</p> <p>(岩手第一ホテル) 参加者 38 人</p> <p>第 4 回草刈賞受賞者紹介</p>
3/26	<p>情報システム工学専攻修士 1 年生中間発表会 (4 月上旬まで)</p>		
3/31	<p>技術部 板垣 稔 技術専門職員定年退職</p> <p>技術部 菊地新司 技術専門職員定年退職</p> <p>技術部 相馬孝志 副技術室長定年退職</p>		
4/1	<p>高橋和貴を電気電子工学科助教に採用</p>		
4/7	<p>岩手大学入学式（岩手県民会館）。</p> <p>工学部入学生：電気電子工学科 62 名，情報システム工学科 69 名</p> <p>3 年次編入学生：電気電子工学科 13 名，情報システム工学科 4 名</p> <p>大学院工学研究科博士前期課程入学生：電気電子工学専攻 39 名，情報システム工学専攻 29 名)</p> <p>大学院工学研究科博士後期課程入学生：電子情報工学専攻 4 名</p>		
4/19	<p>電気電子工学科特別講義，「Ultra-violet lights for water disinfection」，フランシス ドーソン氏（トロント大学電気情報工学科教授）</p>	5/24	<p>電気電子情報科会会計監査</p> <p>(岩手大学工学部電気電子工学科会議室)</p>
5/18	<p>計測自動制御学会東北支部第 235 回研究集会／INS 電子デバイス研究会第 33 回講演会（一祐会館）</p>	5/26	<p>平成 19 年度第 1 回理事会</p> <p>(国保会館) 出席者 14 人</p> <p>平成 19 年度総会にむけて議案書の審議</p> <p>総会の役割分担等</p>

5/25-26	電気電子工学科新入生宿泊研修（国立岩手山青少年交流の家）	6/9	盛岡支部総会 （国保会館）
5/29～	電気電子工学科ソフトボール大会	6/9	平成 19 年度電気電子情報科会総会 （国保会館）出席者 35 人
6/1	開学記念日		18 年度事業報告
6/7	平成 20 年度推薦編入学試験。電気電子工学科 3 名合格		18 年度決算報告・監査報告
6/15	開学記念講演会、「岩手県の可能性」、増田寛也氏（前岩手県知事）		19 年度事業計画
7/10-11	平成 20 年度一般編入学者選抜試験。電気電子工学科 7 名合格、情報システム工学科 2 名合格		19 年度予算
7/13	平成 20 年度大学院工学研究科博士前期課程推薦入学者選抜試験。情報システム工学専攻 6 名合格		19 年度役員選出 その他
8/6	オープンキャンパス		講演 「地上デジタル放送とは」 井上隆志氏（電気 40 年）
8/7	情報システム工学科ソフトボール大会		「地上デジタル放送の実情」 杉本 務氏（電気 33 年）
9/3-4	平成 19 年度大学院工学研究科博士前期課程入学者選抜試験。《平成 19 年 10 月入学》情報システム工学専攻 4 名合格	7/21	仙台支部総会 （ハーネル仙台）出席者 36 人
	平成 20 年度大学院工学研究科博士前期課程入学者選抜試験。《平成 20 年 4 月入学》電気電子工学専攻 23 名合格、情報システム工学専攻 19 名合格		講演 「教育は興育である」 太田原 功 相談役
9/5	平成 19 年度大学院工学研究科博士後期課程入学者選抜試験。《平成 19 年 10 月入学》電子情報工学専攻 3 名合格	8/25	平成 19 年度第 2 回理事会 （国保会館）出席者 10 人
	平成 20 年度大学院工学研究科博士後期課程入学者選抜試験。《平成 20 年 4 月入学》電子情報工学専攻 2 名合格		各支部の報告 「きたかみ」54 号について 新入会員歓迎会について 第 5 回草刈賞選考について 年会費徴収について その他
9/10	地域連携シンポジウム、「組み込み時代の教育・研究と地域連携 - インテリジェントな装置や環境のための工学技術 -」		

9/12	岩手県立水沢高等学校（文部科学省スーパーサイエンスハイスクール事業指定校）研修，約 140 名参加	
9/25-27	電気電子工学科工場見学《関東地区》（東芝 京浜事業所，いすゞ自動車 藤沢工場，アンリツ，IHI MU および横浜第 2 工場）。引率：山田・高橋教員（参加者 28 名）	
9/27	電気電子工学科工場見学《東北地区》（富士通 岩手工場，関東自動車工業 岩手工場）。引率：佐藤教員（参加者 50 名）	
9/26-9/28	電気電子工学専攻修士論文中間審査	
9/28	平成 19 年度岩手大学修了式・卒業式（岩手大学農学部付属農業教育資料館）。電気電子工学科 1 名，電気電子工学専攻 1 名	
10/1	岩手大学入学式（岩手大学事務局）。情報システム工学専攻 4 名，電子情報工学専攻 3 名	
10/1	情報システム工学科李仕剛准教授、鳥取大学教授として転出	
10/23	電気電子工学科特別講義，「電気から学ぶ」，佐藤利三郎氏（S16 年電気科卒，東北大学名誉教授）	10/13 東京支部総会 （本郷・鳳明館森川別館）出席者 52 人 櫻井國雄氏・瑞宝小綬章ご紹介
10/27-28	大学祭（オープンキャンパス）	
11/2	電気電子工学科社長実践学特別講義，「これからの企業が求める技術者像」梅 良之氏（S42 年電気卒，(株) TTK 代表取締役会長）	
11/9	電気学会東北支部・電子情報通信学会東北支部・日本電気協会共催学術講演会，「最近の IT 社会における雷害について」新藤孝敏氏（電力中央研究所），「風力発電設備の系統連系課題」鈴木和夫氏（S52 年電気卒，日立エンジニアリング・アンド・サービス）	

11/20	平成 20 年度推薦入学試験. 電気電子工学科 12 名合格, 情報システム工学科 15 名合格	
11/21	電気電子工学専攻修士 1 年生中間発表会	
11/21	情報システム工学専攻修士論文中間審査発表会 (12 月中旬まで、大講座単位)	
11/30	電気電子工学科社長実践学特別講義, 「新入社員の心得 - 何事にも熱心に取り組むに限る -」池田隆夫氏 (S35 年電気卒, 富士通エフ・アイ・ピー(株)前代表取締役社長)	
12/12	システム理工学系学術講演会, 「パーソナルロボット PaPeRo の音声インターフェイス」佐藤 幹氏 (NEC 共通基盤ソフトウェア研究所知能コミュニケーション TG)	12/10 「きたかみ」編集委員会 (岩手大学工学部電気電子工学科会議室)
12/19-20	博士論文予備審査会 (情報システム工学講座)	
12/20	平成 19 年度盛岡広域地域産業活性化人材養成等事業, 第一回「組み込みシステムセミナー」	
12/21	電子情報通信学会東北支部学術講演会, 「新しい通信サービスの動向の紹介やオペレーション技術向上の取り組み」坂巻知樹氏 (S63 年電子卒, NTT コミュニケーションズ カスタマサービス部運営戦略部門 統合戦略担当部長)	
12/25	博士論文予備審査会 (電子応用工学講座)	



岩手山と一本桜

編集後記

今年の冬は、雪は少ないのですが、ことのほか寒さが厳しく感じられます。

みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

「きたかみ」54号をお届けします。

19年3月に、板垣稔さん、菊地新司さん、相馬孝志さんが定年退職なさいました。

その中で、相馬さんに「在職41年の思い出」を寄稿していただきました。

卒業生の皆さんには、懐かしいことばに出合えるのではないのでしょうか。

例年通り、事務局3人での編集作業です。至らぬ点があるかと思えます。どうぞお許してください。

写真は、「壬生義士伝」の放送で静かなブームになっていた「小岩井の一本桜」ですが、NHK朝の連続ドラマ「どんと晴れ」のおかげで、農場内に観光バスが列をつくり、牧草地の向かいに駐車場が新設されました。

日ごろこの風景を当たり前眺めていた者としては、びっくりです。

今年もきっと真っ青な空の下、残雪の岩手山をバックに
きれいな花を咲かせるでしょう。

みなさん、是非見に来てください。

編集委員

事務局	電気62年卒	長田	洋
	情報平3年卒	木村	彰男
	電子45年卒	柳橋	好子

きたかみ 第54号

発行日	平成20年3月1日
発行者	盛岡市上田4丁目3番5号 岩手大学工学部内 岩手大学電気電子情報科会
	☎019-621-6381
印刷所	(株)阿部謄写堂 盛岡市本町通2丁目8番37号
	☎019-623-2361

平成 20 年度総会並びに懇親会開催のご案内

平成 20 年度の電気電子情報科会総会は、下記のように開催することになりましたので御案内申し上げます。なお、盛岡支部総会も併せて行います。会員各位の多数のご参加をお待ちしております。

なお、住所や勤務先等の確認にも使用させていただきますので、綴り込みのハガキで総会への出欠を、1ヶ月前の平成 20 年 5 月 14 日までにご連絡を頂きたいようお願い申し上げます。

記

日 時 平成 20 年 6 月 14 日 (土)

盛岡支部総会	午後 2 時 30 分～ 3 時 00 分
総 会	午後 3 時 00 分～ 4 時 00 分
講 演 会 等	午後 4 時 00 分～ 5 時 00 分
懇 親 会	午後 5 時 00 分～ 7 時 00 分

場 所 いわて国保会館
盛岡市大沢川原三丁目 7-30
TEL 019-623-4321

議 題 1. 平成 19 年度事業報告、決算・監査報告承認
2. 平成 20 年度事業計画案、予算案審議
3. その他

講 演 会 演題「方言なんだりかんだり～昔話をかたる～」 講師：小野寺 瑞穂 氏 (電気 29 年卒)

懇親会会費 5,000 円 (懇親会席上で、昨年秋・今年春に叙勲された方を御紹介し、祝意を表します。
叙勲された方を御存知の方はお知らせ下さい。)

連 絡 先 総会出欠・叙勲された方の紹介等、会誌「きたかみ」に綴り込みのハガキを使用するか、
下記事務局宛電話、FAX 又は E-mail 等でご連絡下さい。

岩手大学電気電子情報科会事務局 (岩手大学工学部電気電子工学科 432 号室) 兼

電気電子工学科担当 長 田 洋 TEL・FAX 019-621-6381

E-mail osada @ iwate-u.ac.jp

情報システム工学科担当 木 村 彰 男 TEL・FAX 019-621-6488

E-mail kimura @ cis.iwate-u.ac.jp

庶務会計・学外担当 柳 橋 好 子 TEL・FAX 019-686-2253

E-mail t.k-yngbs @ nifty.com